



C&F LOGISTICS

2021年度第3四半期

決算説明資料

株式会社C&Fロジホールディングス

■ 営業収益

84,447百万円
(前期対比で同水準を維持)

TC事業の減収、DC事業の増収により全体での前期対比でほぼ同水準となった。

- ▶ 前期の第1四半期にピークとなった巣ごもり特需は落ち着き、量販店等で取扱われる家庭用冷凍冷蔵食品の取扱物量は減少。
- ▶ 経済活動が緩やかに回復する中、業務用冷凍食品の取扱物量が徐々に回復し、市販用商材の減少分をカバー。
- ▶ 都心エリアのコンビニエンスストア等の店舗向け商材についても徐々に回復しつつあるが、一部業務の配送効率化による配送便数減少などが影響し、コンビニエンスストア物流全体では減収となった。

■ 経常利益

4,766百万円
(前期比△7.5%)

- ▶ 燃油単価の上昇により燃料費が増加。
- ▶ 新規大型拠点稼働により固定費が増加。
(MU首都圏物流センター、HN蓮田センター)
- ▶ 一方で、従来から引き続き業務効率化・内製化を推進したこと、ならびに巣ごもり特需が落ち着き、業務負担が減少したことにより、外注費が減少し、労務費も増加を抑制した。
- ▶ 円安基調の進行により海外事業において為替差益が発生。

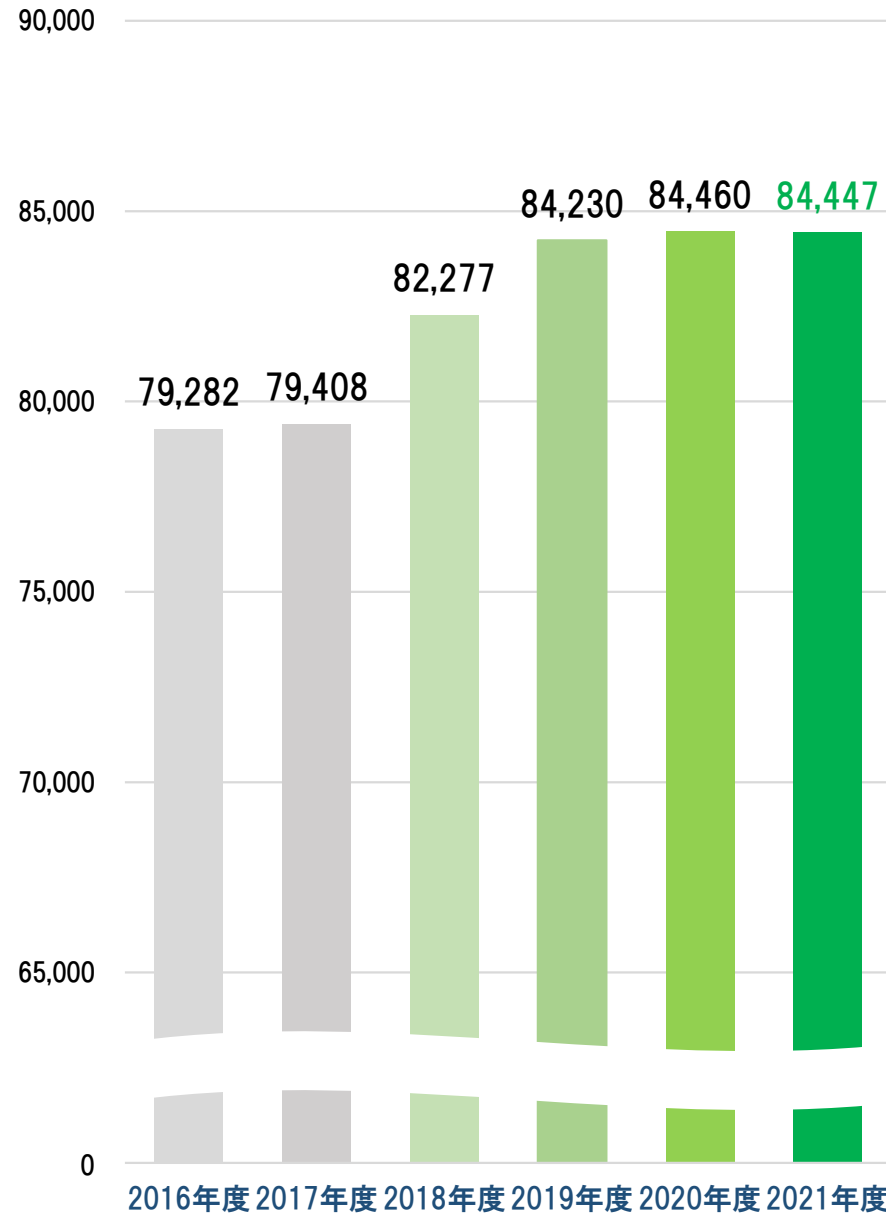
決算概要(ハイライト)

(単位:百万円)

	前期実績		当期実績			
		収入比		収入比	対前期 増減額	増減率
営業収益	84,460	100.0%	84,447	100.0%	△ 12	0.0%
営業原価	76,485	90.6%	77,082	91.3%	597	0.8%
販売費及び一般管理費	3,010	3.6%	2,970	3.5%	△ 39	△1.3%
営業利益	4,964	5.9%	4,394	5.2%	△ 569	△11.5%
経常利益	5,155	6.1%	4,766	5.6%	△ 388	△7.5%
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,301	3.9%	3,212	3.8%	△ 89	△2.7%

営業収益

(百万円)

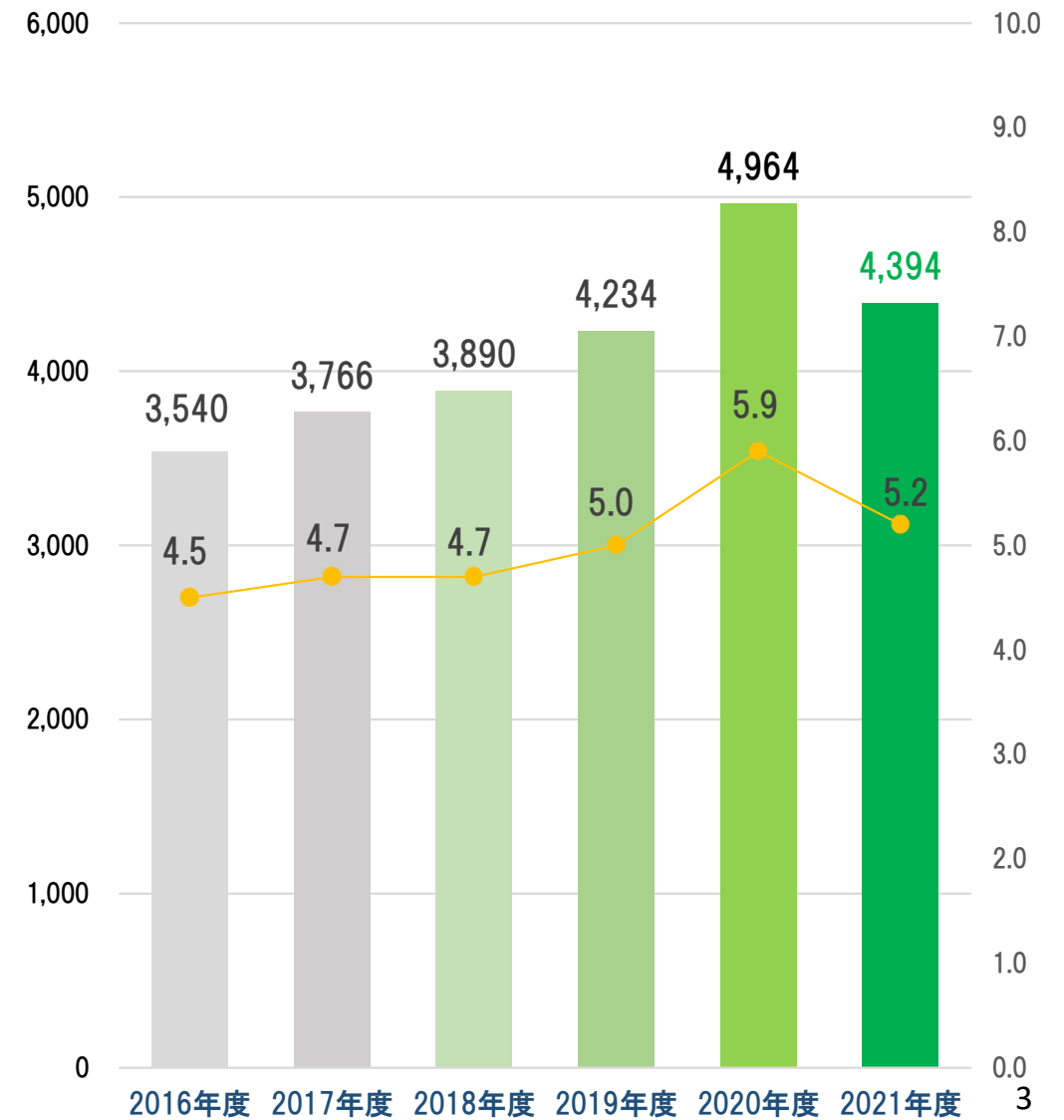


営業利益

● 利益率

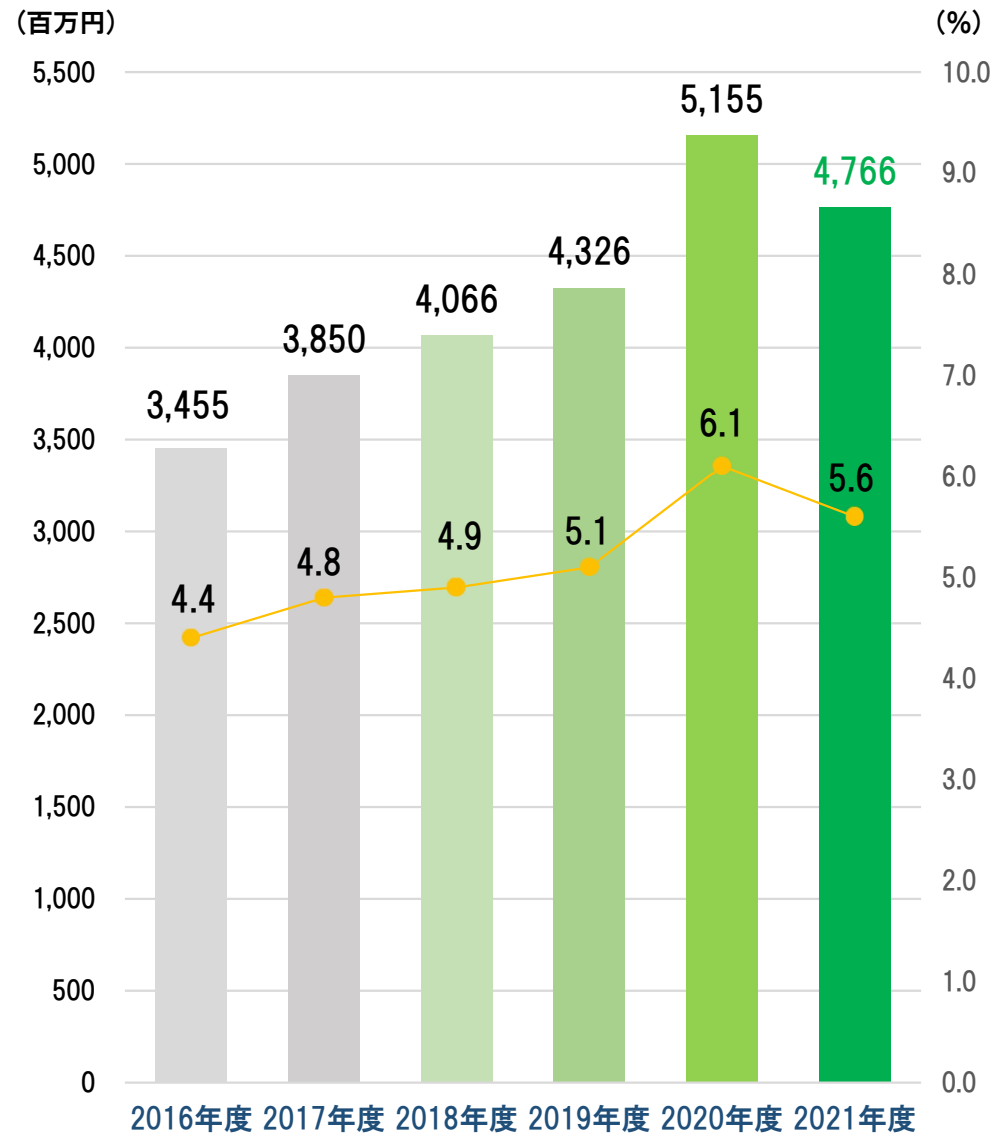
(百万円)

(%)



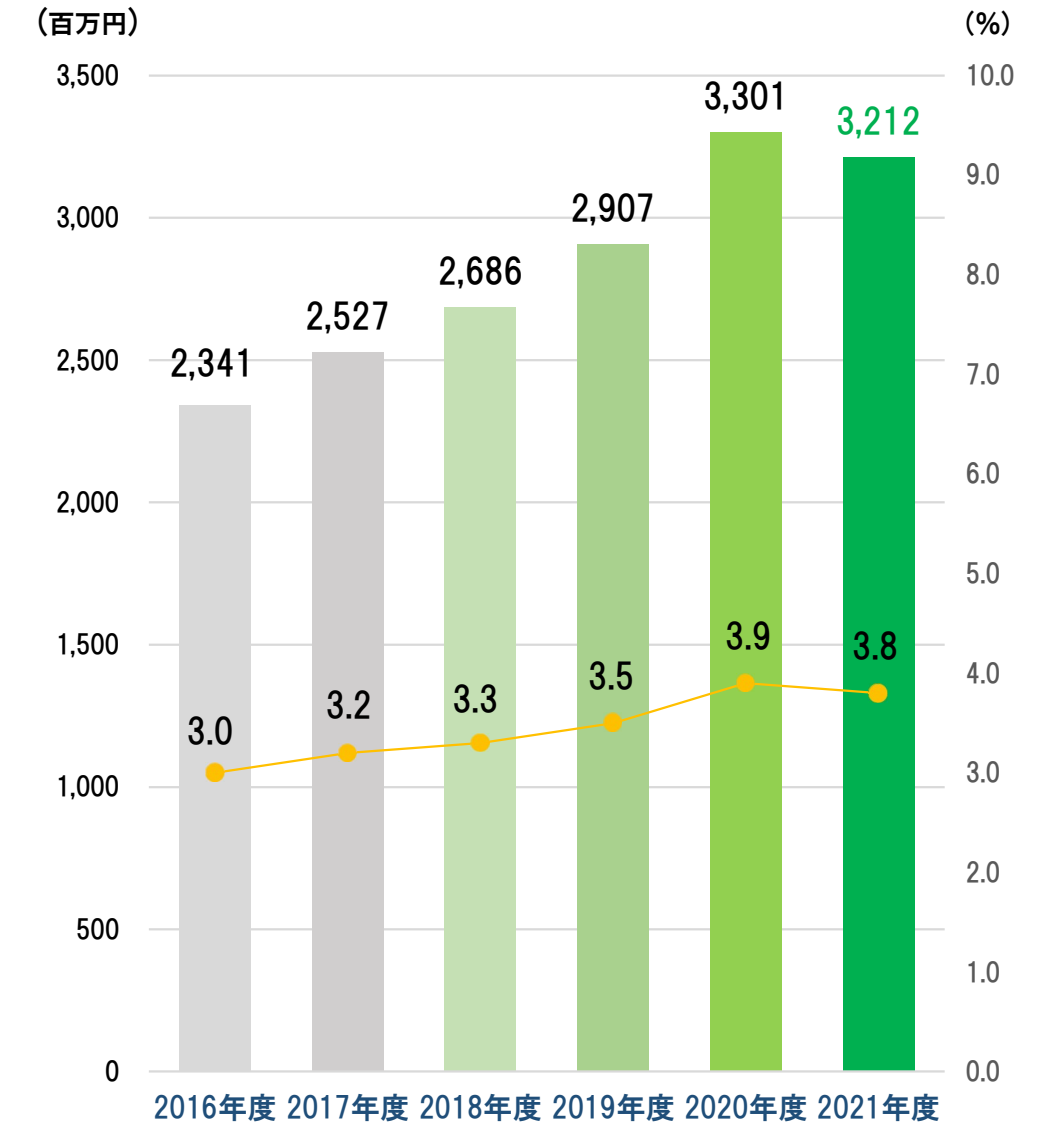
経常利益

● 利益率



親会社株主に帰属する四半期純利益

● 利益率



セグメント別営業収益および利益の概要

(単位:百万円)

		前期実績		当期実績			主な増減要因	
			構成比		構成比	対前期増減率		
TC事業 <small>(通過型センター事業) Transfer Center</small>	営業収益	54,746	64.8%	54,225	64.2%	△1.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・前期のコロナ禍による巣ごもり特需が落ち着き、量販店向けの取扱物量が減少。 ・都心エリアのコンビニエンスストア等の店舗向け商材についても取扱物量は引き続き低調に推移。 	
	セグメント利益	3,594	44.6%	3,015	40.3%	△16.1%		増加要因 ・業務内製化の推進、取扱物量減少による業務負担減により、外注費が減少し、労務費の増加も抑制した。
	(利益率)	6.6%		5.6%				減少要因 ・燃油単価の高騰による燃料費増加 ・新規大型拠点の稼働開始に伴う固定費増加(2021年5月～MU首都圏物流センター)
<small>(注1)</small> DC事業 <small>(保管在庫型物流事業) Distribution Center</small>	営業収益	28,338	33.6%	28,911	34.2%	2.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・巣ごもり特需が落ち着き、市販用商材の取扱物量が減少した一方で、業務用商材の取扱物量が回復傾向 ・新規大型拠点の稼働(2021年3月～HN蓮田センター) 	
	セグメント利益	4,325	53.6%	4,339	58.0%	0.3%		増加要因 ・業務内製化の推進による外注費の減少
	(利益率)	15.3%		15.0%				減少要因 ・新規大型拠点の稼働開始に伴う固定費増加(2021年3月～HN蓮田センター)
<small>(注2)</small> その他	営業収益	1,376	1.6%	1,310	1.6%	△4.8%		
	セグメント利益	143	1.8%	127	1.7%	△11.1%		
	(利益率)	10.4%		9.7%				

(注1)『DC事業』にはベトナム事業が含まれております。

(注2)『その他』には警備輸送業、病院等関連物流業、人材派遣業、および保険代理店業等が含まれております。

業態別営業収益の概要

(単位:百万円)

	前期実績		当期実績				主な増減要因
		構成比		構成比	増減額	増減率	
共同配送 ^(注1)	49,133	58.2%	49,834	59.0%	700	1.4%	増加要因 <ul style="list-style-type: none"> ・業務用商材の取扱物量回復 ・新規大型拠点の稼働開始 減少要因 <ul style="list-style-type: none"> ・巣ごもり特需の落ち着きにより市販用商材の取扱物量が減少
コンビニエンスストア物流	11,419	13.5%	11,133	13.2%	△ 285	△2.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・外出機会、インバウンドの減少により、都心エリアの店舗向け食品の取扱物量は低調に推移
チェーンストア物流	10,815	12.8%	10,407	12.3%	△ 408	△3.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・巣ごもり特需が落ち着き、量販店向けの市販用商材の取扱物量が減少
問屋物流 ^(注2)	7,458	8.8%	7,498	8.9%	39	0.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響により問屋における取扱物量は堅調に推移。
保税・加工	2,341	2.8%	2,240	2.7%	△ 100	△4.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・輸出入用のコンテナ不足に伴う主に港湾地区の保税貨物の取扱物量減少
その他 ^(注3)	3,291	3.9%	3,333	3.9%	41	1.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・経済活動の緩やかな回復に伴い、化粧品・雑貨の取扱物量が増加。
【合計】	84,460	100.0%	84,447	100.0%	△ 12	0.0%	

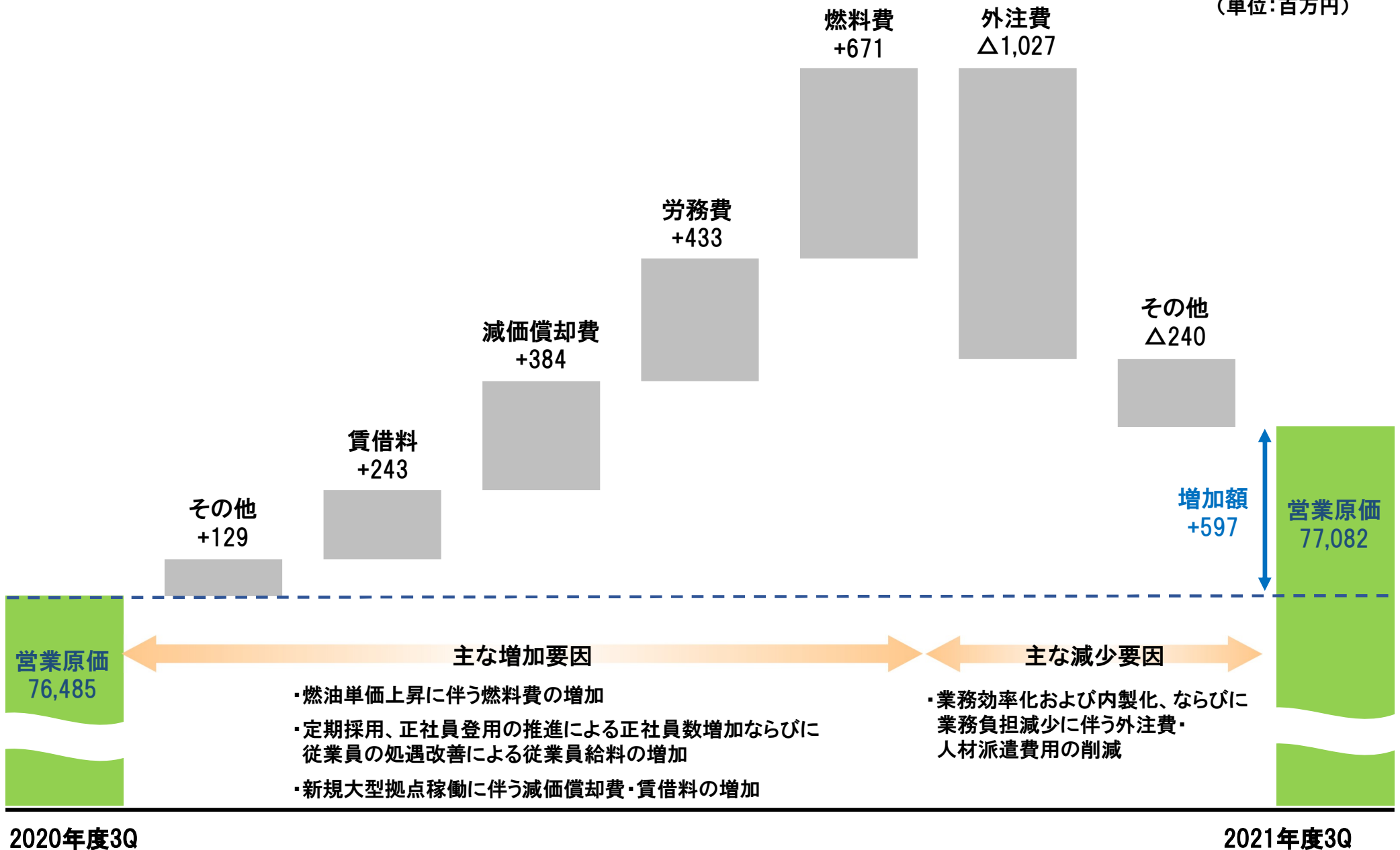
(注1)『共同配送』はHNにおけるフローゼン(DC事業)およびMUJにおけるチルド(TC事業)を合算した数値になります。

(注2)『問屋物流』には病院食材物流が含まれております。

(注3)『その他』には警備輸送業、病院等関連物流業、人材派遣業、保険代理店業およびベトナム事業などが含まれております。

営業原価の分析

(単位:百万円)



2020年度3Q

2021年度3Q

人員と車両台数の比較(前期末比較)

(1)人員の比較

(単位:人)

	前期末 (2021年3月末時点)	当期末 (2021年12月末時点)	増減	主な増減要因
社員 (内、ドライバー)	5,554 (2,735)	5,804 (2,916)	250 (181)	・新卒者定期採用(80名) ・正社員登用による増加
契約社員・臨時要員 (内、ドライバー)	6,430 (1,512)	5,955 (1,266)	△ 475 (△ 246)	・正社員登用による減少 ・一部業務負担減少によるパート・アルバイトの登録者数減少
合計 (内、ドライバー)	11,984 (4,247)	11,759 (4,182)	△ 225 (△ 65)	

(2)車両台数の比較

(単位:台)

	前期末 (2021年3月末時点)	当期末 (2021年12月末時点)	増減
大型車	675	692	17
中型車	1,535	1,547	12
小型車	466	462	△ 4
現金輸送車	128	126	△ 2
合計	2,804	2,827	23

低温物流の新たな価値を創造します。



- ※ 本資料は、2021年度の当社の連結決算公表時(2022年2月14日)の数値をベースに、作成日現在(2022年2月16日)において、入手可能な情報に基づき作成したものです。
今後の業績等につきましては、様々な要因によって変動する可能性がありますので、お含みおきください。
- ※ 本資料は当社グループの決算概要をご理解いただくことを目的として作成したものであり、株式会社C&Fロジホールディングスの株式等の売買の勧誘を目的とするものではありません。

本資料に関するお問い合わせ先
株式会社C&Fロジホールディングス
TEL:03-5291-8100 FAX:03-5291-6150
広報IR部/団 俊貴

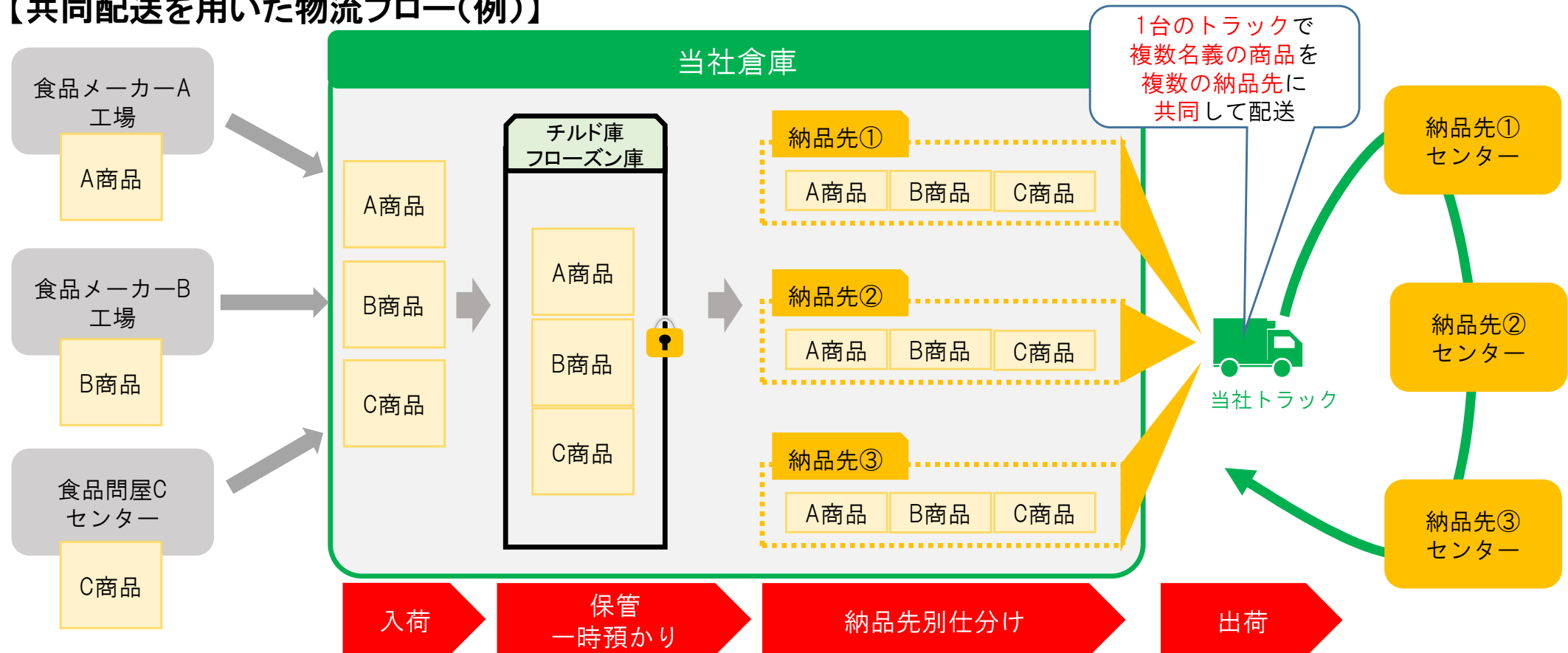
参考情報



参考情報 -共同配送モデル-

名糖運輸・ヒューテックノオリンはそれぞれチルド帯・フローズン帯における共同配送物流を他社に先駆けて事業化。両社とも長年取り組んできた共同配送におけるノウハウの蓄積は、当社の最大の強みとなっている。

【共同配送を用いた物流フロー(例)】



荷主様が自社で配送する場合
当社(共同配送)を用いる場合

…荷主様ご自身がトラックを用意し納品先①、②、③にそれぞれ納品
…当社倉庫への一括納品

共同配送の効果

- ・荷主様の物流コスト削減が可能。
- ・当社一元管理による品質の安定化。
- ・使用する車両台数が減ることで、排気ガス排出量削減。

TC事業

Transfer Center
通過型センター事業

365日24時間体制で、主に**チルド食品**を中心とした低温食品の物流センター業務および輸配送を行う。

→ **保管期間が短く、ほとんど預り在庫を持たない(≒通過型)事業モデル**

▶ 共同配送事業

異なる複数の顧客から商品を預かり、届先別に仕分けを行った後、混載にて輸配送を行う事業。

▶ コンビニエンスストア物流事業

コンビニエンスストア各社の商品センターの運営および店舗配送を行う事業。

▶ チェーンストア物流事業

スーパーマーケット等の量販店のチルド・ドライ商品の商品センターの運営および店舗配送を行う事業。



MU首都圏物流センター



MU輸配送用トラック

拠点数 関東地方を中心に全国99店所
(協力会社除く)

主な取扱品目 ■市販用チルド飲料・チルドデザート
…スーパーマーケット、コンビニエンスストアなど

■市販用ドライ食品
…スーパーマーケットなど



国内共同配送拠点マップ(協力会社含む)

DC事業

Distribution Center
保管在庫型物流事業

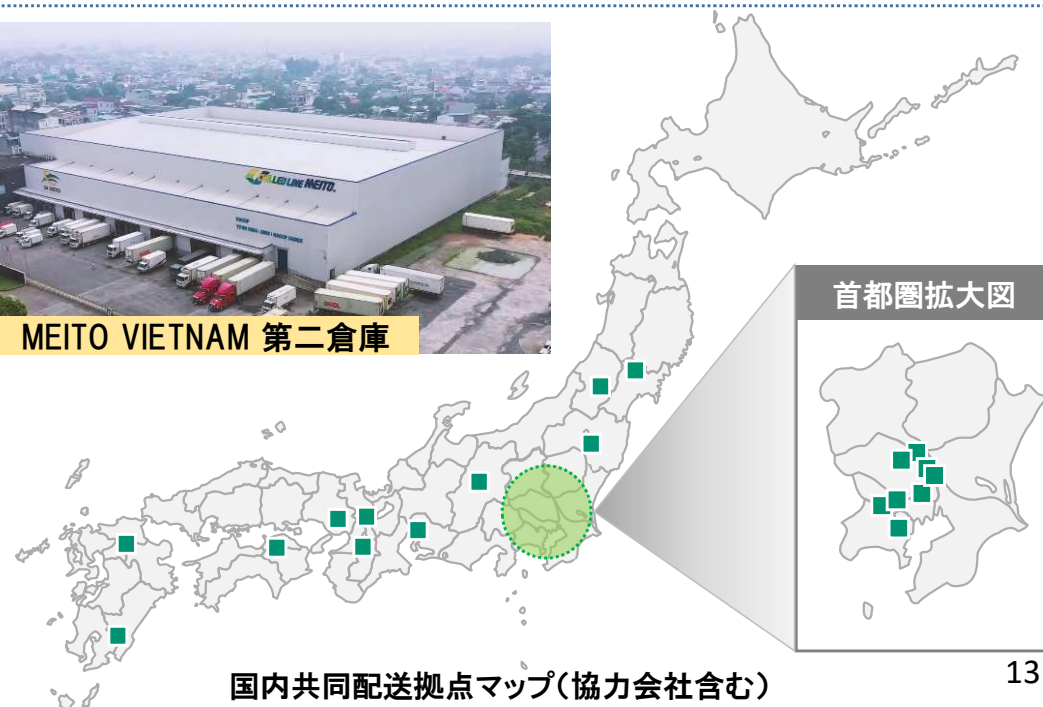
主に**冷凍食品**の保管・荷役および輸配送を一体的に行う事業。
当社の倉庫内にて多様な寄託貨物の保管・名義変更や車両別・届先別の仕分けを行うと共に、専用車による輸配送業務を行う。

➡ 保管期間が長く、**預り在庫を持つ(≒保管型)事業モデル**

- ▶ **共同配送事業** 異なる複数の寄託者から商品を預かり、届先別に仕分けを行った後、混載にて輸配送を行う事業。
- ▶ **病院食材物流事業** 約3,300の医療・福祉施設等への給食用食材を仕分け・配送する。
- ▶ **リパック加工業** 冷凍野菜等の原料に市販用・業務用としてパッケージ詰め加工(=リパック加工)を施す。
- ▶ **海外(ベトナム)事業** ベトナム社会主義共和国において、主に冷凍食品の加工原材料の保管、荷役、配送を行う。
("MEITO VIETNAM CO., LTD."、"T&M TRANSPORTATION CO., LTD.")



- 拠点数** 関東地方を中心に全国26店所
(ベトナム・協力会社除く)
- 主な取扱品目**
- 業務用冷凍加工食品
…レストラン、病院、老介護施設など
 - 市販用冷凍加工食品
…スーパーマーケット、コンビニエンスストアなど



その他

主要事業であるDC事業・TC事業以外の物流業務に関連する付帯サービスを中心とした事業。

- ▶ **警備輸送業** 警備業法に基づき、首都圏の金融機関で取り扱う現金や手形などの重要書類や、貴重品等の警備輸送を行う。
- ▶ **病院等関連物流業** 病院はもとより老人ホーム、老人健康管理施設や薬局まで関東1都6県約2,000件の医療福祉関連施設を対象にリネン類(シーツ、タオル、白衣等)の配送・集荷作業を行う。
- ▶ **人材派遣事業** 乗務員、倉庫作業員等、物流業務に特化した人材をグループ内外へ派遣。
- ▶ **保険代理店業** 車両を中心とした保険商品をグループ各社、取引先、従業員・従業員の家族等に提案する代理店事業。

など・・・